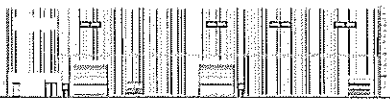
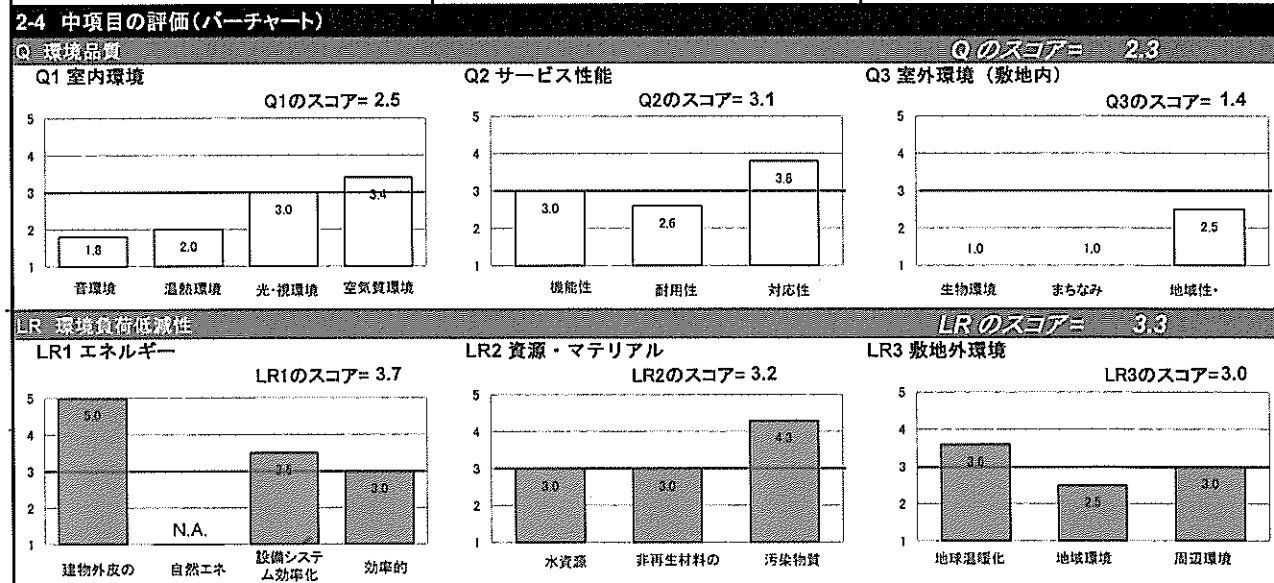
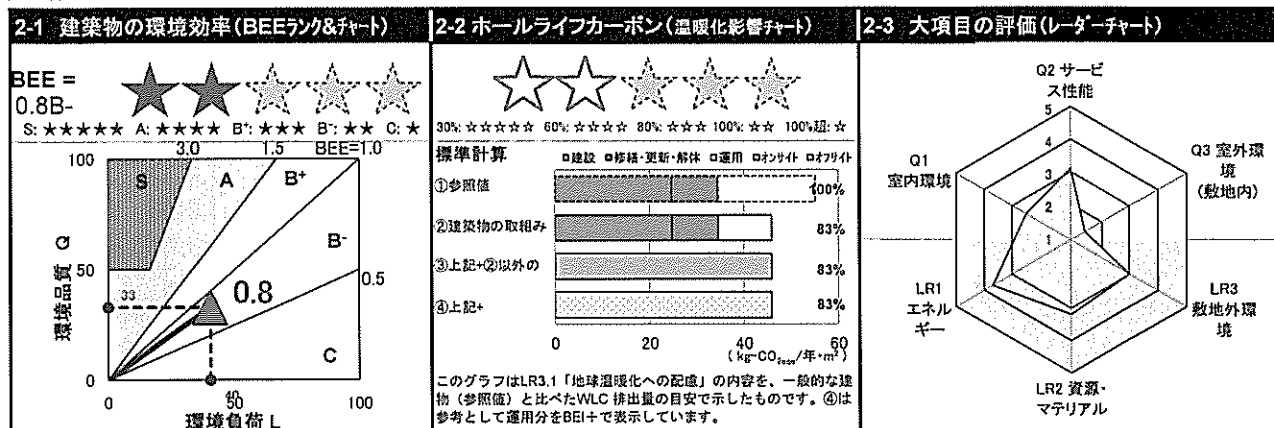


CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	株式会社京伸トラック 倉庫	階数	 ファットの保護を解除してください	
建設地	京都府久世郡久御山町下津屋富ノ	地上2F		
用途地域	商業地域, 防火地域	構造		
地域区分	6地域	平均居住人員		
建物用途	事務所, 工場	30 人		
竣工年	2026年12月 竣工	年間使用時間		
敷地面積	2,867 m ²	9,000 時間/年(想定値)		
建築面積	1,830 m ²	評価の段階		
延床面積	3,270 m ²	評価の実施日		
		2026年3月13日		
		作成者		
		前田芳弘		
		確認日		
		2026年3月30日		
		確認者		
		佐藤道太郎		



3 設計上の配慮事項		
総合	メンテナンス性を考慮した設計とした。	その他 特になし
Q1 室内環境	内装仕上材にF☆☆☆☆を全面的に採用とした。 事務所等の部分の空間の壁にグラスウールを設け、遮音性の高く設定とした。	Q3 室外環境(敷地内) 近隣の工場・倉庫の外観と遜色の無いよう、周囲に調和するものとした。
Q2 サービス性能	維持管理に配慮した設計、階高、空間の自由さを確保し建物の機能性を高めている。 階高を高く設定し、使い勝手が良いものとした。 作業員がくつろげるよう、食堂や休憩スペースを広く設け	Q2 サービス性能 維持管理に配慮した設計、階高、空間の自由さを確保し建物の機能性を高めている。 階高を高く設定し、使い勝手が良いものとした。 作業員がくつろげるよう、食堂や休憩スペースを広く設け
LR1 エネルギー	高効率な照明器具を採用するなど省エネルギー性能を高めている。 口部にLOW-E複層ガラスを採用とした。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材が容易に分別可能になっている。 OAフロアを採用とした。 内装仕上材にF☆☆☆☆を全面的に採用とした。
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別可能になっている。 OAフロアを採用とした。 内装仕上材にF☆☆☆☆を全面的に採用とした。	LR3 敷地外環境 搬出入口は十分なスペースを確保し地域の交通不可抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

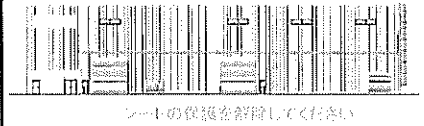
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社京伸トラック 倉庫	階数	地上2F
建設地	京都府久世郡久御山町下津屋富ノ	構造	S造
用途地域	商業地域, 防火地域	平均居住人員	30 人
地域区分	6地域	年間使用時間	9,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所, 工場	評価の段階	
竣工年	2026年12月 竣工	評価の実施日	2026年3月13日
敷地面積	2,867 m ²	作成者	前田芳弘
建築面積	1,830 m ²	確認日	2026年3月30日
延床面積	3,270 m ²	確認者	佐藤道太郎



シーートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果(レーダーチャート)
BEE = 0.8B- S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。	3(保健) 4(教育) 5(エンター) 6(水・衛生) 7(エネルギー) 8(経済・雇用) 9(イノベーション) 11(都市) 12(生産・消費) 13(気候変動) 15(陸上資源) 17(実施手段) SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.5 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.4	LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.7 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0	Q のスコア= 2.3 LR のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 メンテナンス性を考慮した設計とした。	その他 特になし	
Q1 室内環境 内装仕上材にF★★★★を全面的に採用とした。事務所等の部分の空間の壁にグラスウールを設け、遮音性の高く設定とした。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮した設計、階高、空間の自由さを確保し建物の機能性を高めている。階高を高く設定し、使い勝手が良いものとした。作業員がくつろげるよう、食堂や休憩スペースを広く設け	Q3 室外環境(敷地内) 近隣の工場・倉庫の外観と遜色の無いよう、周囲に調和するものとした。
LR1 エネルギー 高効率な照明器具を採用するなど省エネルギー性能を高めている。大半の開口部にLOW-E複層ガラスを採用とした。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材が容易に分別可能になっている。OAフロアを採用とした。内装仕上材にF★★★★を全面的に採用とした。	LR3 敷地外環境 敷出入口は十分なスペースを確保し地域の交通不可抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される